

提

言

性の多様性から考える 教育の在り方

多様な性を考える会 にじいろ神栖 代表、声楽家

かわの ようすけ
河野 陽介



1 はじめに

「多様な性を考える会 にじいろ神栖」（以下「団体」）という性的マイノリティの当事者団体を設立してから、早いもので丸5年が経ちました。

ある女子高生同士のトラブルが設立の理由でした。そのニュースがTwitterで流れてきた当時、ぼくは直感的に（女子高生同士なんて、何か事情があったに違いない。もしかしてレズビアン（女性同性愛）同士…？）と思いました。その後を追うと、そこには性的マイノリティの側面も背景にあったという事実を知ることになりました。ぼく自身、今でこそゲイ（男性同性愛者）であることを公言して生活していますが、10代の頃は誰にも言えず、とても苦しかったのをよく覚えています。事件を起こしてしまった生徒たちの苦悩や思い煩いを想像することは、容易でした。同時に、「周囲の大人たちはその子たちにどんな風に接していたのだろう。そもそも、同性愛や性同一性障害といった性にまつわる自分と他者との違いについて、きちんと教えられる人はいるのだろうか。」そんな考えがぼくの頭の中を支配していました。事件を起こしてしまった一方の子は、その直後、一時的に地元を離れることになりました。「再び故郷に戻った時、その子の居場所はあるのだろうか。」そこで思い立ち、団体の設立に至ったのです。ちょうど、渋谷区で日本初の同性パートナーシップ条例が制定された頃のことでした。

設立直後は、主にTwitter上で当事者会の告

知をし、茨城県内各地でピクニックやバーベキューなどのイベントを開催していました。

そんなある日、ぼくの活動を新聞で知った東庄中学校から、教職員向けの講話の依頼をいただきました。東庄町は、神栖市と利根川を挟んだ対岸に位置する地域です。人前で話をする機会のデビューは、実は千葉県だったのです。それからは、茨城県内各地からの講話や研修依頼も増え、その合間に銚子市、香取市、旭市など、東総地区の依頼もいただくようになりました。それには、ぼくが佐原高校の出身というご縁も大きく関係していました。最近では千葉県からは、東総地区以外からの依頼も増えてきています。更には、本業である声楽家としての仕事で訪れた先々で当事者の個別相談に応じたり、合唱部等の部活指導に伺っていたご縁から、生徒向けの人権講話の実施に繋がったりしたこともありました。このように、気付けば今や、全国各地からの需要や事例と向き合う日々なのです。

今回、執筆の依頼を受け、これまでの様々な出会いやご縁を通じて見えてきた教育現場の実態を踏まえ、提言という形でまとめてみようと思いました。

2 教育現場への提言

(1) どの子にも平等に教育を施そう

これは本当に当たり前のことなのですが、人との違いを理由に、子供たち一人一人に保障される教育を受ける権利が脅かされることがあってはなりません。誰を好きになるか。

自分の性別は何なのか。そういった部分での自分と他人との違いから、将来に希望が持てず、教育を受ける機会を諦めてしまう子が一人でも減るように先生方に努めてほしい、と改めて強調します。

(2)性の多様性を捉えるための概念を知ろう

多様な性のあり方を理解するために、「性的指向」と「性自認」という考え方をまず知る必要があります。「性的指向」とは、性愛の対象がどこに向くか、向かないか、という概念で、「Sexual Orientation(セクシュアル オリエンテーション)」を和訳したものです。「性自認」とは、自分自身の性別をどのように認識しているのかという概念で、「Gender Identity(ジェンダー アイデンティティ)」を和訳したものです。「性同一性」という言葉で表現される場合もあります。

世の中の多くの人は、異性のみに性的指向が向く「異性愛者(ヘテロセクシュアル)」であり、性自認については、身体との不一致等違和感のない「Cisgender(シスジェンダー)」である、といえます。それに対し、性的指向や性自認等の観点で一般的な在り方とは異なる人のことを、「性的少数者」といいます。これは、「Sexual Minority(セクシュアル マイノリティ)」を和訳したもので、「性的少数派」や「性的マイノリティ」と表現されることもあります。多い少ないの区別や、組合せの違いはあれど、誰もが性的指向や性自認といった概念を当てはめることができ、一人一人が多様な性の一員であるという考え方が今広がっています。その他の観点として、「Gender Expression(ジェンダー エクスプレッション)」や「Romantic Orientation(ロマンティック オリエンテーション)」といった概念もあり、それぞれ「性表現」あるいは「ジェンダー表現」や「恋愛指向」等と訳されます。

ところで、性的少数者を表す言葉の一つとして、以下の頭文字を組み合わせた「LGBT」という表現があります。

・Lesbian(レズビアン):女性同性愛者

・Gay(ゲイ):男性同性愛者

・Bisexual(バイセクシュアル):両性愛者

・Transgender(トランスジェンダー):性同一性障害を含む、生まれたときに割り当てられた性別と異なる生き方や表現を望む者

性的少数者の中には、LGBTの四つの属性以外にも様々な性の在り方が存在します。生活上の困難が、性的指向や性自認等のどこを起因とするか正確に把握することこそが、よりきめ細やかな対応のために不可欠なのです。

(3)一人一人と向き合い、寄り添い、みんなで一緒に考えていこう

特別支援、同和問題、宗教、人種、家庭内トラブル等、様々な他の分野と同様に、性的マイノリティに関してもこうしておけば良いというマニュアルなどありません。困りごとや抱えている問題は、一人一人違います。分かったつもりにならず、常に児童生徒や保護者、場合によっては専門性の高い人も交えながら、対話を重ねるべきです。

(4)何かあったらすぐ連携

学級の中だけで、学年の中だけで、あるいは学校の中だけでなんとかしようと思わず、何かあったらすぐに関係機関や専門機関、そして地域の当事者や当事者団体と連携しましょう。

3 さいごに

あなたは、千葉県内で実際に性的マイノリティの子供たちと接している先生を知っていますか？千葉県内で実際に生活する当事者の児童生徒を知っていますか？千葉県内で教鞭を執る、当事者の学校の先生を知っていますか？

ぼくは、知っています。繋がっています。それらのご縁が、これを手に取り読んでくださっているどなたかと、いつかどこかで、何かよいことに繋がったらよいなと願って止みません。